

私たちにできること

物資輸送編



01

新型コロナウイルス感染症の拡大に際し、JALグループは社会インフラを担う一員として、医療用貨物や生活物資の輸送などを続けています。世界が感染症に立ち向かうために、私たちにできることは何なのか。今月号と来月号の2回にわたって、JALグループの取り組みの一端をご紹介します。

日本と世界を結ぶ 私たちにできること

新型コロナウイルスが中国で猛威を奮った今年初め、医療物資不足に対する支援として、JALグループは防護服3000枚を中国紅十字会総会（中国の赤十字組織本部）に寄贈いたしました。

日本で感染拡大が深刻になった3月には、中国の各省人民政府から日本の都道府県に対し、防護服やマスク数万枚が義援されています。これら医療物資の輸送に当たってJ

ALグループは、無償で運搬に協力しています。

中国だけではなく、支援物資を各地へ寄贈される政府機関・企業・団体の皆さまにお声がけをいただき、JALグループは北海道やパラオなど、国内外へ輸送協力を行いました。

このような輸送支援は、これまで地震や洪水などの災害時にも行っていました。世界的な感染症拡大という状況下でも、さまざまな組織の皆さまと力をあわせ、感染拡大の防止に貢献したいと考え

今回のテーマに当てはまる目標



03

01.新鮮なイチゴをお届けしました(千葉県)。02.フードバンクに飲食料を寄贈しました(ハワイ)。03.ホノルルスタッフが願いを込めて折りあげた折り鶴は、マスクと共に地元の病院や保育園に寄贈されました。04.06.コロナ指定病院の医療従事者の方々へ、機内でも人気のコンソメスープなどを寄贈しました。スタッフ手書きのメッセージカード550枚には、感謝の思いが綴られています(沖縄県)。05.機内でご提供しているジュース類などを寄贈しました(大阪府)。



04



06 05

ています。

地域の皆さまの力になりたい

新型コロナウイルスの影響や、緊急事態宣言による外出自粛などを受け、JALグループでは国内線・国際線を大幅に減便するとともに、一部ラウンジの閉鎖や営業時間の短縮を行ってきました。これにより、お客さまにお届けするはずだった機内やラウンジの飲食料が行き場を失いました。丹精込めて生産された飲食料を廃棄するのは「もったいない、申し訳ない」という気持ちと、感染症拡大による影響でお困りの方、最前線で戦ってくださっている方の「力になりたい」という気持ち、世界中のJALグループスタッフ共通の思いです。

国内外のスタッフから声があり、各地の病院や自治体、フードバンクなどに飲食料などの寄贈を実施することになりました。例えば大阪で働くスタッフは、近隣自治体および医療関係者に対して、飲食



大阪チームからは、防護服の代替品として、雨合羽などを自治体と医療従事者の方々に寄贈しました。

料をはじめ、防護服の代替となり得る雨合羽や作業着、感染対策用の手作りガウンやフェースシールドなどを、手書きのメッセージカードを添えて寄贈しました。

千葉県で観光農園などを展開するJALアグリポートからは、同県の障がい者施設へ摘みだてのイチゴを寄贈しています。

これまでのように安心してご旅行やご出張に行っていただけよう、JALグループのスタッフ一人一人が「私たちにできること」をそれぞれの視点から考え、実行しています。

S

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。